

床暖房対応タイルの施工方法

タイルは熱伝導率や蓄熱性に優れた素材です。タイル仕上げの床暖房は、暖かさが長持ちし、遠赤外線効果で身体を芯から暖めます。床暖房を使わない夏場はひんやりと、冬場は床暖房により暖かい空間をつくり、インテリアに合わせて色やデザインを選ぶことができます。水や汚れ、傷にも強くペットが行き来する空間にも最適です。

施工方法の特長と概要

この施工要領は一般住宅において、根太組み工法での屋内床に当社が販売する床暖房対応タイルと温水式床暖房（小根太入り温水マット：ガス会社指定品）を組み合わせて、屋内床に施工する場合に適用します。ただし、常時水がかりする屋内床（例：浴室床等）への施工は、適用外とします。

特長

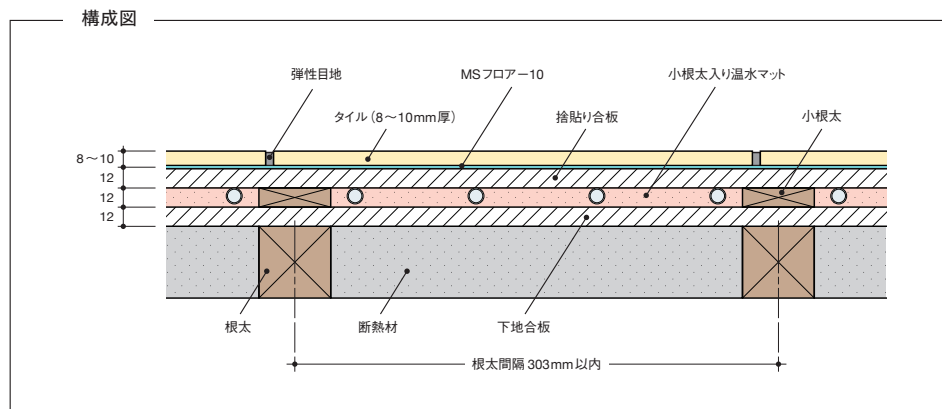
本施工方法は、セメント系の張付け材と目地モルタルを使用する湿式工法ではなく、タイルを下地合板にMSフロアー10を用いて張付け、目地部には樹脂系の弾性目地材を目地詰めする乾式工法です。MSフロアー10、弾性目地材を使用することにより、住宅のリビング床等で使用される合板下地のたわみによるタイル、目地材の割れを低減することができます。

概要

- ①小根太入り温水マットの上にI類合板（12mm）を捨貼りします。
- ②MSフロアー10を捨貼り合板全面に塗布し、タイルを直張りします。
- ③接着剤硬化後、目地部に弾性目地材を目地詰めします。

適用タイル

- 150mm角以上（225cm²以上）、厚さ8～10mm



床暖房 施工例 原克久様邸 「ランドストーン」CDR-U3810 (P.526)

施工手順

①準備

- 床下地が小根太入り温水マットを施工しない状態で十分な強度を保つように施工してください。
※根太間隔は 303mm 以内としてください。
※下地合板はI類合板(12mm)を使用してください。(根太、下地合板は乾燥したものをお使いください。)
- 温水マットを使用しない部屋周辺部のダミー合板は、同じ厚さのI類合板(12mm)を使用し、段差のないように仕上げてください。
- 温水マットとダミー合板は、掃除機などを用いて十分清掃してください。

②12 mm 合板の捨貼り

- 小根太入り温水マットの上にI類合板(12mm)を捨貼りします。捨貼り合板の長辺方向が温水マットの小根太方向と直行するように配置してください。
捨貼り合板は、乾燥したものをお使いください。
- 捨貼り合板(1820×910mm)は長辺方向に1/2 ずらすと、温水マットの小根太の位置がわかりやすく、釘打ち作業が容易になります。
- 合板と合板の合わせ面が、温水マットの小根太の中心にくるように合板を切断してください。
- 合板同士は突き付けとせず、1～3mm 程度の隙間をあげ、千鳥にずらして張ってください。
- 合板は、長さ 38mm 以上のスクリーニングで約 300mm ピッチで固定してください。スクリーニングは、小根太とダミー合板に打ち、温水マットの小根太部分以外には絶対に釘打ちしないでください。なお、合板の段差は 0.5mm 以内、捨貼り合板の不陸は ±2mm/m 以内となるように調整してください。
- 捨貼り合板の表面は、掃除機などを用いて十分清掃してください。

③タイルの張付け

- 他部材に接着剤が付着しないように事前に養生してください。接着剤が付着し硬化すると除去できなくなることがありますのでご注意ください。
- 12mm の捨貼り合板全面に MS フロー 10 を 2～3mm の厚さでこすり付けるように塗布した後、市販の5mm クシ目ごてを用いて、余分な接着剤をかき取るようにクシ目を立ててください。
- 接着剤を塗布してタイルを張付けるまでの張付け可能時間を確認してください。この時間を過ぎると、接着剤表面に皮張りが生じ接着強度が低下しますので、十分注意してください。
- タイル裏面全体に接着剤が行き渡るように十分たたき押さえてください。
- 目地直しは、張付け可能時間以内に行ってください。夏場は、この時間より短くなりますので、早めに目地直しを終了するようにしてください。
- 目地部分からはみ出している接着剤は、硬化しないうちに取り除いてください。
- タイル表面等に付着した接着剤は、水を含ませた布で拭き取ってください。取れにくい時は、エチルアルコールを含ませた布で拭くと取れやすくなります。
- タイルの切断は、タイルカッター、電動カッターを用いて切断してください。切断面は、安全のために面取り加工を必ずしてください。
- タイル張付け後、1 日以上タイルに荷重がかからないように養生してください。

④目地詰め

- 目地材は、合板下地のたわみによる目地材のひび割れを防止するために、必ず内装用弾性目地材をご使用ください。

